

第1回 苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 平成28年6月8日（水）16:00～18:00
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 石橋会長、菊田副委員長、秋山委員、佐藤委員、竹澤委員、
廣島委員、小宮委員、坂田委員、戸川代理委員、今野委員、
森委員、公地委員、井上委員、加藤委員、甲谷委員、
高野委員、辻田委員、肥高委員
（田中委員欠席）
- 【オブザーバー】 日本政策金融公庫 梅沢支店長、
胆振総合振興局地域政策部 高見部長、
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 富田部長、政策推進室 町田室長、
政策推進課 小名課長、阿部課長補佐、川合主査

議 事 内 容

1 開会

2 議題

(3) 平成27年度実施事業評価について

【事務局から 資料1、2に沿って、一括説明】

【意見交換】

<座長>

評価はどのように行ったのか。

<事務局>

評価は、担当部署の自己評価である。

<A委員>

創業サポートによるスタートアップ支援の後、サポートやフォローアップといった事業はないのか。日本全国では、創業して1年以内に約6割の事業所が廃業また倒産し、5年経つと約8割以上の企業が倒産もしくは廃業し、10年以上だと9割以上と、10年もつ企業は1割に満たない現状である。今後は、単なるスタートアップ支援ではなくて、フォローアップも含めたような形も、考えていった方が良いと思う。

<B 委員>

就業チャレンジ事業の中に、見学ツアー先に J ファームが入っている。農業の観点から、大型生産法人として苫東に進出している、J ファーム、苫東ファームでは、土と戯れる農業ではなく、水耕栽培という、きれいな形での農業に取り組んでいる。そういうところに若い人たちが見学する機会をつくり、土の農業もあるが、こういう形の農業もあることを、さらに広めてもらえればと思う。

<C 委員>

創業サポート事業で 1 事業に対して 30 万という金額が設定されているが、会社として登記すると大体それだけのお金がかかってしまう。もう少しあれば、創業に踏み出せる人がいるのではと印象を持っている。操業された方や、セミナーを受けられた方に、どれくらいの金額があれば、創業したいかを聞きながら、その金額設定をフレキシブルに変えて、一步踏み出す人が増える支援をした方が良いのでは。

<D 委員>

ハローワークでは、キャリアアップ助成金、非正規労働者を正規化、創業に関しては地域雇用開発助成金など、様々な助成制度があるので、活用して貰えればと思う。

<E 委員>

効率性という評価があるが、どういう基準で評価しているのか。また、もう 1 点、それぞれの事業は、広く周知する必要もあるかと思うが、その周知の方法はどのようにしているのか。

→<事務局>

効率性については、担当課による自己評価。周知方法については、個々の事業で実施している。

→<座長>

折角、立ち上げた事業は、皆さんに周知しなくては活かされないのでは、周知に工夫してほしい。そのことを担当部署に伝えて欲しい。

<F 委員>

合同就職説明会の事業実績のところ、採用につながった、あるいは、つながらなかったケースにおける分析は行われているのか。また、参加した求職者に対するアンケート調査は行ったのか。その状況は？

→<事務局>

26 社出展、78 人参加、1 人採用という状況。採用は、企業と就職者のニーズのマッチングであり、各企業でニーズ・事業内容が異なるので、各企業においてケースの分析は行わ

れている。また、求職者に対するアンケートも実施しており、回答した方の中で、不満、やや不満といったネガティブな回答をする人はいなかった。

<G委員>

DMOの構築・検討については、白老や、有珠洞爺の一市三町、沙流川流域で中規模DMOの企画が出ており、せっかく nittan で18市町が連携した大規模DMOを企画するので、リーダーシップをとって欲しい。

空港民営化の話も出てきており、民営化により雇用に対する空港のバリエーションも広がることとなる。空港の半分は苫小牧市であり、本市でも、定住、観光施設、宿泊施設を呼び込み、DMOと連携して定住者を増やせばよい。苫小牧は観光に弱いという意見もあるが、海と空の入口として、観光面からの雇用も重要である。

<H委員>

今回、森蘭航路のツアーが始まるということで、高く評価している。そこに携わる業者の一所懸命さを感じ、行政が本気でやれば、結果がついてくると感じた。そのために、行政だけではなく、産学官、商工会議所や観光協会や教育機関も含めてもっと連携を強めて行ければ良い。

地方統一選の前には地方創生と言っていて、今は一億総活躍に変わっている国の方針はどのようなかなとは思いますが、この作った基本目標は、良いと思うので、単発的に終わらず、継続的に続けて欲しい。

<I委員>

先行型事業の中で、企業立地サポートは3つの補助金を出したが、各企業への周知ということでは、2千社くらいにチラシを送付するなど周知に努めていた。ただ、1社1千万の補助は、民間事業者へのインパクトは強いが、件数が限られてしまうので、金額を小さくして、採択の数を増やしても良いのではと思っている。

新卒者等雇用奨励金の1人22万6千円だが、ぜひ毎年のようにやってもらいたい。

離職防止支援事業における委託先から派遣された行政書士の講座も受講したが、非常に素晴らしかった。総合的に、昨年度の先行型の事業は評価している。

<J委員>

行政改革推進審議会の委員もやっており、行革プランネクストステージの中で大きく7つのテーマを設けている。その一つの、市民サービスの向上の積極的展開という中に、移住・定住の推進に向けた情報発信、民間活力の積極的な活用、新たな財源の創出に向けてふるさと納税に触れたテーマを設けてやっているが、これは総合戦略に位置付けた事業そのものであったり、雇用拡大や観光・地域のブランド化、産業競争力といった総合戦略の視点に関連

するものである。複数の審議会で似たような業務があるので、情報共有など連携をとりながら、進めると一層深まった内容になるのかと思う。

→〈事務局〉

総合戦略は人口減少対策に特化したものであり、行革は行政全体という視点の違いはある。しかし、委員の言うとおりに、似た事業の連携も必要かと考えるので、本日の意見を行革審の事務局と話し合いながら進めていきたい。

〈K委員〉

行政改革推進審議会のメンバーに、私もなっているが、市で、内部調整ができているのかと思う。我々はそれぞれの会議に行っては意見を出す、市の内部で共有、調整してもらい、苫小牧の活性化に向けてもらいたい。

就業支援後のフォローアップは非常に大事なことだと思う。その中から今後の進め方等のヒントが出てくると思うので是非やってもらいたい。

事業評価の効率性と有効性について、高・中・低で自己評価を表示しているという説明があったが、我々が知りたいのは、その中の取り組みプロセスで、これが非常に大事なことと思う。そういう意味では、評価表現、効果表現の方法として、点数制、あるいは、いまの高・中・低の表現がいいのかということも含め検討して、今後の政策課題に取り組んでほしい。

〈L委員〉

保育園の業界の立場から、この戦略によって生じた新しい事業とか雇用機会の中で、働くお母さんたちに優しい職場が少しでも増えれば、戦略会議の目的でもある少子化対策にも少しつながっていくのかなという感想を持った。

〈M委員〉

DMO 検討で、一社商品化に結びついたという話があったが、何が商品化になったのか。

→〈事務局〉

商品化とは、東京発の森と室蘭を船で結ぶ航路を活用した旅行ツアーのことであり、千歳空港に飛行機で入り、一旦、札幌に入った後、洞爺湖温泉から、室蘭―森の航路を経て、函館に入り、東京に新幹線で戻るというツアーである。今年の夏に10回程度、10日間の実施を予定しているものが商品化され、今週から募集を開始したと聞いている。

〈M委員〉

資料2の17ページの事業実績の事業件数が27年度6件となっているが、事業の内容は3件しか載っていないが、この他にまだ3件あるということではどうか。

→〈事務局〉

具体的な事業内容はわからないが、担当課ではその意図で実績報告を作成していると理解

している。

<M委員>

男女平等参画のことに関しては、来年度、日本女性会議苫小牧で行われるが、前回だったか、行政の参加が少ないと話したことがある。組織間連携ということで様々な企業が載っているが、それぞれが意識を改革しないと男女平等は進まない。そこで、件数だけ6件と書いて、事業の内容が3件しか載っていないところを、きちんと載せて欲しい。

放課後児童クラブの充実というところは、素晴らしいなと思う。私は、一人家庭の会をやっているが、放課後児童クラブが時間も延長したし、預かれる学年も延長したということで、共働きの家庭が非常に助かっていると思う。また、このことで、支援員が足りなくなったということで、支援員の募集も市の方でされたので、就労の場確保という面でも、良いことだと思う。

<N委員>

いままで役所の審議会を多くやってきたが、コスト、お金がどのくらいかかっているかが出てこなかった部分がある。今回は、はっきりとコストを示しており、このことは評価したい。

非常に残念なところは、自己評価だったということである。初年度は自己評価も止むを得ないとも思うが、継続して事業として進める上では、自己評価だけだとどうしても甘くなってしまうと思う。ダブルの評価、自分たちの原課で評価するというのも当然必要だと思うし、それとは別に、役所の別部署や審議会で評価するのもありとは思う。

他の審議会との連携だが、私も市民自治推進会議を長年やり、他の審議会との連携について提案し、難しいとの回答であった。人口を増やすという主要目的がある会議だとしても、いろんな審議会と連携した方が良い事業も多々あるので、内部調整というのはこれから必要なかなとは思う。

nittanでの森蘭航路の話だが、この事業の必要性を読み解くと新幹線が来ない地域にも観光客を呼びたいという考え方自身は評価すべきであり、この地域を盛り上げるという意味ではいいと思う。ただし、森蘭航路が主たる事業として進めるというのは、私としては疑問である。旅行時間の有効活用を目的に、夜時間において、函館から胆振・日高の観光地、洞爺湖、登別という次の目的地にアクセスできるような形態を、例えば沿線自治体でお金を出し合っ、て、車両を夜間運行するとか、森蘭航路もフェリーのような形にして夜間運行し、観光客を乗せて休んで、次の目的地に向かってもらうというようなやり方も、胆振日高のためにはいいのではと思った。

<O委員>

いつも私なりに一所懸命考えて話しているが、的外れなのか通ったことは一度もないので、空回りのような気がして、役に立っているのかというのを最近すごく考えている。

28年度に向けての願いだが、出生、人口ビジョンを、もう一度原点に戻ってみると、第一に人口流失を防いで若者が就職しやすい、住みやすい、定住移住して貰えるまちづくりをし、出生率を上げるということだと思う。出生率を上げることは急務だと思う。それに対しての手立て、放課後児童クラブとか、もっと市民としてはこれといったものが欲しい。

最近の新聞に、国としても多子世帯の幼児教育無償化ということで、年収360万未満の家庭では二人目の子どもの保育料は半額、三人目以降の子どもの保育料は無償という事が出たが、それとタイアップして、苫小牧市独自でもっと応援することが大事と思う。さらに、児童扶養手当における第二子の支給額を5千円～1万円、第三子以降を3千円～6千円増額することや、奨学金制度の拡充検討といった国の情報もタイアップして市民にPRして、出生率を上げる方向にもっと力を注いで欲しい。基本目標1（雇用）とか4（産業競争力）に注力している感じはするので、そこは人口を増やすための土台として、維持しながら、基本目標2（子育て）にもっと力を注いでもらいたい。

あと新聞では、子育て世代包括支援センターの窓口が出来たと、女性の方と一緒に写真で一面に掲載しアピールしていた。パパの子育て応援事業も、新聞に載っていたが、人数があまりにも少ないとのこと。女性復職支援事業も出たと思うが、新聞社とも提携して、総合戦略で進めていることを写真入で記事に出せば良いと思う。

苫小牧市の場合は、ひとり親家庭が多いとも聞いているので、ひとり親でも十分子育て出来るという形を、もっと力を入れて28年度取り組んで欲しい。

保育園で、仕事帰りの疲れたお母さんがゆっくり出来るように、1時間くらい多め看るといような、お母さんの精神的なゆとりが出来るような取組が出来ないものか。子供に対して、やさしく接することにも繋がるので、そういうゆとりの推進をしてもらえたらと思う。

同様に、保育園に行っていない子供の場合、働いていないお母さんの場合の一時預かり保育みたいなのが載っていたが、人数が少ないので本当にニーズがないのか、PRが少ないのか、審査が厳しいのか、その辺はどうなのか。資料を読むと、就職活動を行っているとか、研修を行っているとか、精神的に病んでいるとかという理由となっているが、疲れが溜まっているレベルの方でも活用できる懐の大きい事業にして貰えたらというのが願いである。

<P委員>

職場環境改善事業の中では、職場改善等のための経費を補助するということだが、実際にどう離職防止に繋がっているのかをどのように判断しているのか教えて欲しい。

あと全体的な意見で、子育てについて、苫小牧市は地域性が広く学童保育や保育園に子を預けるのに使いづらいと思うので、改善してもらえれば、もっとお母さん方が働きやすく、子どもを生きやすい環境になるかと思う。

→<事務局>

職場改善に関する取組については、社員寮の整備等2件、保育所・託児所の設置1件、臭気等の改善2件、トイレ改修1件となっており、それぞれの会社に対し、社員の定着率や、社員各々に聞き取り調査を行っている。

今後、どのような事業が評価の高い事業かも含め、事例を重ねることで分析し、評価の高い事業に対して、多くの取り組みが出来ていけばと思う。

→<事務局>

補足で、人口減少を迎えている中で、この戦略で人口を増やすというところが非常に大事なので、職場環境改善ということにおいて社員寮の設置や保育所の社内設置に活用されると非常にありがたいと考えている。ただ中にはトイレの改修という部分があるが、中にはトイレが汚くて辞めるという状況もある様なので、これも十分効果があると考えている。

離職防止に繋がるかの判断は難しいところではあるが、今年度は既に45社の申込みがあり、中でもトイレの改修が多いと聞いている。

<P委員>

トイレなど、本来、企業がやるべきところを担っているのではないかと思う。社員寮は補助金を使用しているところだと思うが、それが継続的にどう動いていくのかというところにおいては使い方を判断しなければいけないかと思う。

<事務局>

御意見のとおり、社員寮を作って市外の方はそこに住んでもらう、社内に保育所を作って若いお母さん方に働いてもらおうというのがこの戦略上非常にわかりやすい。ただ、トイレの改修で離職防止に繋がっているという会社も実際にはある様なので、担当課の方で諸事情を考慮しながら選定を行っている。我々としては、わかりやすいところに補助を出していければと思っている。

<P委員>

もうひとつ、中小企業だけでなく、保育士、介護士も人材確保が難しく、就職してから何ヶ月間は低賃金になりやすいため、そういった面での補助というのも方法の一つではないかと思う、それが就業を継続させる事にも繋がると思う。

<Qオブザーバー>

創業支援について、日本公庫の融資実績としては、苫小牧市は26年度が21件、27年

度が29件と大幅に伸びており、特に女性の新規開業が2倍以上増えているため、当地は、創業に優位性があると思う。

ただ、すぐ廃業しては意味がないので、創業フォローアップは重要だと感じており、公庫としても取り組んではいるが限界もあるので、商工会議所、地域金融機関、その他支援機関と連携して企業が成長していくように取り組んでいきたいと思う。

あと一点、補助金の対象が「新規創業セミナー受講が、年度内に市内で開業した場合」とあるが、受講した年の翌年に開業するような事もあり得るので、拡充してもらえたらと感じた。

<Rオブザーバー>

P D C Aのチェックの部分が大変重要になってくると思う。役所の自己評価は高めに出ていると思われるかも知れない。我々の会議において、民間の委員の方より「分析が甘いのでは、目標が低いのでは」と厳しい意見があった。一概に言えないがやはり、チェックをするという部分が今後に繋がっていくと思うので、議論や意見を深めたら良いと思う。

<座長>

「自己評価」について、評価項目は何か、客観性とは何かを皆に分りやすく、評価の仕組みを工夫した方がよいかと思う。

もう一点、各委員から審議会での発言が反映されていないのではという意見があったので、事務局におきましては、しっかり担当部署に伝えて反映して貰えたらと思う。そして、委員の皆さんには遠慮なくご意見をいただければありがたいと思う。